

旬の産直大百科

JAの農産物直売所も対象! いわて季節の花めぐりスタンプラリー

岩手県は、県内の産直施設や生花店で県産花きを購入した方を対象とした、「いわて季節の花めぐりスタンプラリー」を展開しています。JAいわて花巻の4つの農産物直売所も対象です!ぜひ、この機会に地元のお花をお買い求めください。

“お花”を買って“いわて牛”を当てよう!

<p>スタンプ7個で</p> <p>A 賞</p> <p>いわて牛 サーロインステーキ (200g×3枚) 30名様</p>	<p>スタンプ5個で</p> <p>B 賞</p> <p>いわて牛 肩ロースすき焼き用 (450g) 50名様</p>	<p>スタンプ3個で</p> <p>C 賞</p> <p>いわて牛 焼肉用 (400g) 120名様</p>
--	---	--

ハズレた方へ…Wチャンス! 「花とみどりのギフト券(1,000円×1枚)」100名様へ抽選でプレゼント!

開催期間 7月31日(金)～10月4日(日)
※応募締切は10月12日(月)まで(当日消印有効)
 ※お盆期間中(JAの農産物直売所は8月11日～14日)は対応不可

応募方法 専用応募はがきまたはスマートフォンからご応募可能です。

対象店舗や詳しい内容は、公式ホームページをご覧ください。[いわて季節の花めぐりスタンプラリー](#)

お問い合わせ [いわて季節の花めぐりスタンプラリー運営事務局](#) ☎0120-065-768(受付/午前10時～午後5時)

ぼらーの広場

ぼらーの広場は、読者の皆さまとの交流の場です。皆さまからテーマにちなんだお便りを募集し、紹介しています。

今月のテーマ
身近な夏の風物詩

投稿を頂いた方の中から抽選で、今月は

ブドウ キャンベル
をプレゼント!



農家ならではの早朝に聞こえる草刈り機の音です。夜明けと同時に、あちらこちらから機械の音が響いています。(北上市・ネコ大好き)

家の周りのヤマユリが咲き始め、独特な香りが漂う時同じく、ツクツクボウシが鳴き始めます。これが夏の風物詩ですね。(花巻市・時の旅人)

エアコンがあり快適ですが、毎年、軒下に南部風鈴を下げます。チリンチリンと鳴る音色を聞くと、涼しさが倍増します。(遠野市・おかめんこ)

我が家の夏の風物詩は、夏カレーです。暑い日に、汗をかきながら食べるカレーライスが最高においしいです!(北上市・ゼルダ)

毎年、家の周辺でホテルを見かけます。夫が外でたばこを吸っていると、たばこの火を仲間と勘違いして寄ってくるようです。(北上市・ミント)

食卓に冷麺やワカメ麺、そうめん、冷やし中華が日替わりに出たら「あー、夏が来たー」と感じ、おいしく食べられます。(花巻市・せい子ちゃん)

来月のテーマ(10月号掲載)「秋になったらこれがしたい!」応募締切/9月10日(木)消印有効

テーマにちなんだエピソードを募集します。秋になると毎年していることや秋にしてみたいことは何ですか?エピソードと共に教えてください。

応募方法: ①テーマにちなんだお話②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③ペンネーム④JAや広報誌に関するご意見・ご感想を記入の上、はがきまたはメールにてご応募ください。右記のQRコードからのご応募もできます。

※投稿頂いた中から内容を誌面に掲載させていただきます。ペンネームが無い場合はイニシャルでの掲載になります。

●はがき: 〒025-8504 花巻市野田 316-1 JAいわて花巻企画課「ぼらーの広場」宛
 ●メール: polano@jahanamaki.or.jp ●当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

5名様にプレゼント!

二子さといも

JAいわて花巻
応募フォーム
<https://www.jahanamaki.or.jp/entry/index.php>



がんばる青年部

梅雨に負けず! 盟友集い、廃プラ回収を実施

青年部は、地域貢献と環境を守る活動の一環として、使用済みの農業用プラスチックやビニールの回収に毎年取り組んでいます。

今年度は7月11日と18日に花巻地域で、7月18日と25日に北上地域で行いました。そのうち、石鳥谷カントリーエレベーター(花巻市石鳥谷町)には花巻地域青年部石鳥谷支部の盟友約20人が集結。朝から荷降ろしを待つ車両が石鳥谷カントリーエレベーターの敷地内にずらりと並び、雨が



ずらりと並ぶ荷降ろしを待つ車両

降り続く中、盟友たちが汗を流しながら協力して作業を行いました。地域の組合員や生産者な

ど約120人から持ち込まれた育苗箱や肥料袋、農業容器、マルチシートなどを種類に応じて業者指定の



手際よく作業する盟友たち
回収袋に手際よく詰め込み、昨年より約5t多い約14tの廃プラを回収しました。

同支部の晴山貴宏支部長は「新型コロナウイルス感染症の影響で今年度初めての支部活動となったが、多くの盟友に集まってもらい、活動のスタートが切れた。今年度は活動が減りつつあるが、盟友が集まれる機会を作っていきたい」と話しました。

食料をたく協同組合 JAと農業

食料生産の基盤「家族農業」

国連は、2017年の国連総会で19年からの10年間を「家族農業の10年」と定めました。各国が家族農業に関わる政策を進め、経験を共有することなどを求めています。家族農業について「食料安全保障の確立、貧困・飢餓の解消、生物多様性の保全、環境の持続可能性の達成等に大きな役割を果たしている」など、その価値が再認識されています。

国連食糧農業機関(FAO)によると、家族農業は、開発途上国、先進国ともに主要な農業形態です。世界の食料生産額の8割以上を占めており、社会・経済や環境、文化といった側面でも重要な役割を担っています。

日本の農業経営体のなかで、家族(世帯)を基礎とする経営体の割合は97.3%(2015年※)です。JAグループは創作的自己改革の実践を通して、家族農業をはじめとする多様な農業の発展に寄与していきます。 ※農林水産省「2015年農林業センサス」をもとに計算

【家族農業】(かぞくのうきょう)

「1戸の家族により管理・運営され、労働力の過半を、家族労働力が占めている農林漁業」と国連食糧農業機関(FAO)は定義しています。飢餓の撲滅や環境保全などの目標を掲げる。国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」との関係においても、持続性のある農業のあり方として注目が集まっています。

家族農業に関わる世界の動き

- 2014年 国際家族農業年
- 15年 9月 国連「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択
- 17年12月 国連「家族農業の10年」採択(19年～28年)
- 19年 5月 「家族農業の10年」開始記念イベント

家族農業の役割



- ▶ 食料の生産・飢餓の撲滅
 - ▶ 環境の保全
 - ▶ 地域の活性化
 - ▶ 文化の継承
 - ▶ 雇用機会の創出
- など多くに貢献

耕そう、大地と地域のみらい。